

2

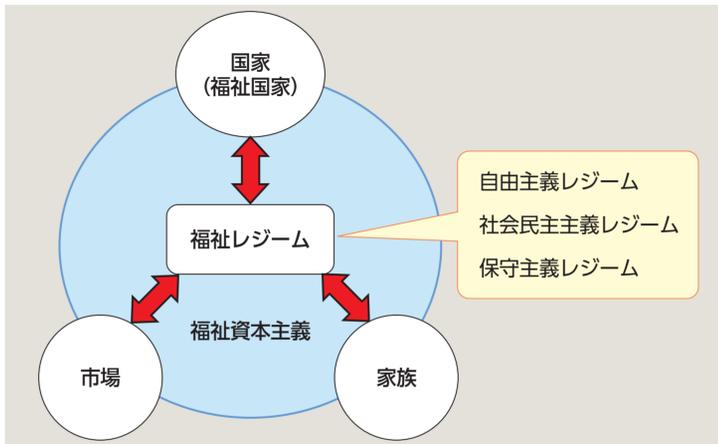
「大陸型福祉国家の持続可能性

ードイツとオランダの伝統的民間非営利部門の変化ー」

国際人文学部 魚住明代 廣瀬真理子

研究の背景

- ①福祉レジーム論: Esping-Andersen(1999)
- ②福祉国家の類型や多様性に着目した諸研究:
W.Arts/J.Gelissen(2010), M.Seeleib-Kaiser u.a.(2008), F.-X.Kaufmann(2015)他
- ③大陸ヨーロッパ諸国・日韓の比較研究:ひとり親家族支援策の国際比較(船橋・湯澤・魚住・相馬 2020)



自由主義レジーム
市場の役割大, 小さな政府
アングロ・サクソン諸国(アメリカ・オーストラリア)

社会民主主義レジーム
普遍主義, 大きな政府
北欧諸国(スウェーデン・デンマーク・ノルウェー)

保守主義レジーム
家族・職域の役割大, 政府の役割は中～大規模
大陸ヨーロッパ諸国(ドイツ・フランス・オランダ)

図1: E.-Andersenによる「福祉レジーム」の概念
(『平成24年版厚生労働白書』p78)

研究の目的

社会の新自由主義化, 地方分権化に伴う「福祉国家衰退」のもとで, 大陸ヨーロッパ諸国でも, 福祉サービスの担い手は「公から民へ」の流れの中にある。ドイツとオランダは, 伝統的にキリスト教民主主義のもとで発展をみた福祉国家であるという点で共通している。両国における近年の福祉改革の方向性と, 民間非営利団体の主導による社会福祉行政が, どのように連動し, 変容しつつあるのかに着目する。具体的には, 両国の民間非営利団体の変化を把握することを通じて, 大陸ヨーロッパ諸国(ドイツとオランダ)の福祉改革における「公」の位置づけの変化を見極め, 最終的には日本の福祉行政への示唆を得ることを目的とする。

現在(2023)までの研究成果(文献研究・現地調査)

- ヨーロッパ大陸型福祉国家に共通する特徴ードイツとオランダ
- 共通点: キリスト教の教義に基づく家族主義, 補完性原理, 民間非営利団体が福祉に果たす役割
 - 相違点:
 - ◇ドイツ: 福祉六団体による福祉サービスの提供
医療保険改革・年金改革・ハルツ改革による福祉削減→民間営利団体, 自助努力へ
 - ◇オランダ: 北欧&大陸混合型福祉, 民間営利団体の成長, 急速な政策決定と改革
フレキシブルな政策転換がもたらす福祉政策の継続性への影響

調査事例: ドイツ ミュンヘン市 フリュステンリード

- 「ASZ(高齢者サービスセンター)」でのヒヤリング調査(2023.9.11.)
- 第二次世界大戦後に組織化した民間支援団体を統合する組織(1990年設立)
- 市内34箇所の多様な支援組織の連携化, ミュンヘン市による統括
- 地域の高齢者支援ネットワークの構築(社会的属性による差別の解消)
- 異なる宗派を基盤とする民間非営利団体の役割=全ての人にサービスを繋ぐ
- △行政、市民ボランティアの連携→「共助」への期待, 多文化共生の課題
- △近年の急速な教会離れがもたらす活動財源の縮小
- △コロナ・パンデミック下の変化ー民間営利団体との連携
- △高齢化と在宅支援の充実→地方自治体の負担増→地域間格差の拡大



考察と結論

- ・社会福祉行政における民間非営利団体の役割の変化=地方自治体を中心に諸団体の連携強化(ドイツ)
- ・民間営利団体との競合, 所得階層による福祉サービスの分化(オランダ)
- ・福祉財源問題を中心に論じられてきた福祉国家改革が, コロナ・パンデミックを経過し多様な組織間の協働に重点を置く方向へと変化(ドイツ/オランダ), その継続性については注視する必要
- ・東西の地域間格差の拡大(ドイツ)
- ・コロナ・パンデミック下における福祉国家への要請と揺り戻し(ドイツ・オランダ)・・・今後の変化に注目

参考文献

- ・エスピン-アンデルセン(2000/1999)『ポスト工業経済の社会的基礎』(渡邊雅男・渡邊恵子訳)桜井書店
- ・エバース・A./J.L.ラヴィル編(2007/2004)『欧州サードセクターー歴史・理論・政策ー』日本経済新聞社
- ・福原宏幸・中村健吾・柳原剛司編(2023)『コロナ危機と欧州福祉レジームの転換』昭和堂
- ・船橋恵子・湯澤直美・魚住明代・相馬直子(2020)「ひとり親家族支援策の国際比較」『大原社会問題研究所雑誌』No.746
- ・Kaufmann, Franz-Xaver(2003):*Varianten des Wohlfahrtsstaats*, Suhrkamp Verlag.
- ・Schmid, Josef (2010):*Wohlfahrtsstaaten im Vergleich -Soziale Sicherung in Europa-Organisation, Finanzierung, Leistungen und Probleme*, VS Verlag.
- ・Pailier, Bruno (ed.)(2010):*A Long Goodbye to Bismarck? The Politics of Welfare Reform in Continental Europe*, Amsterdam University Press.ほか

補遺:本研究は, 日本学術振興会科学研究費(基盤研究(C))「大陸型福祉国家の持続可能性:ドイツとオランダの比較研究」(2020~), 課題番号20K02139 の研究助成を受けている。